



今月の記事

調理専門職として

救命救急研修

ユニットケアの壺

リレーエッセイ

今月の愛の園



調理室主任
生田 順一

専門職としての役割

私たち調理職員としての職務は、入居者の皆さんが健康で幸せな生活がおくれるよう、食を通して支援をすることです。

日々の作業においての小さなことかもしれませんが、食材の仕込み時に調理職員から切り方を聞かれることがあります。大根一つをとっても何時も同じ大きさには切りません。そんな時、私は入居者の皆さんのことを考えて切る様にとっています。その時によって大きさは違いますが、小さな気遣いを持っていれば皆さんの安全につながると私なりに思います。私たちの役割は入居者の皆さんが食べる楽しみを持ち、喜んでもらえることです。それには、各部署との連携を取りながら、調理職員としてプロ意識を持ち取り組むことです。縁の下の力持ちとして入居者の皆さんに食べやすい食事、美味しい食事作りを心掛けていきたいと思ひます。

また、調理室では衛生管理にも気をつけなくてははいけません。今の時期、ノロウイルスによる

食中毒などが新聞やテレビで報道されています。手洗いはもちろん、床や調理器具の消毒を欠かさず衛生管理に努めています。

昨年6月に和歌山県食品衛生管理認定制度によるチェック表を保健所に提出し、清掃・洗浄・消毒などの基礎的衛生管理に加え、従業者への衛生教育の実施や機械器具の保守点検など、本格的な衛生管理の取り組みを評価する「レベル2衛生管理」に認定され確認済シールが届きました。今後も上のレベルを目指し頑張りたいと思ひます。



和歌山を拠点に活動する紀州じんろ太鼓の皆さんが勇壮な演奏を披露してくださいました 2/16

救急救命講習を行っています

愛の園では入居者・利用者の皆さんの救急対応のため、全職員が救急救命講習を受講します。今年も3月に4回のコースを開催しています。初めて受講した職員の感想を紹介します。

講師のお話で印象に残った言葉は「まずはその場に居合わせた者より救命するリレーをスタートさせる事が大事だ」という言葉です。心肺停止後15秒以内に意識が消失し、3～4分以上その状態が続くと脳の回復は困難となる為、心臓が止まっている間、心肺蘇生によって心臓や脳に血液を送り続けることでAEDによる心拍再開の効果を高め、更には心拍再開後に脳に

後遺症を残さないためにも一次救命処置は重要だと実感しました。(介護職員 井戸本真紀)

救命講習に初めて参加させて頂いて本当に勉強になったと思うのが第一印象です。今、自分が介護の仕事に携わっているということもありますし、日常の中でどこかで自分がそういう場面に遭遇するかもしれませんので、自分自身に少しでも知識があるかないかでは大きく違うと思ひました。また、このような機会があれば参加したいと思ひます。(介護職員 那須健人)

主に応急手当の基礎知識を実技を交えて学びました。初めて胸部圧迫と人工呼吸を経験しましたが、胸部圧迫は組んだ手に体重を乗せ30回繰り返すとかなり体力を使うものだと知りました。消防隊員の話からお年寄りには骨がもろく、力を加えて圧迫すると肋骨を骨折するときもあり、命に関わる救命処置を優先させると聞きました。今回の講習で学んだことを活かし身近で起こり得る緊急時に冷静に対処できるよう役立てたいと思ひます。(介護職員 小中久美)



AEDを用いた心肺蘇生を学びます 3/5



ユニットケアの壺(2) 生活スタイルを大切に

ユニットリーダー
山本 哲史



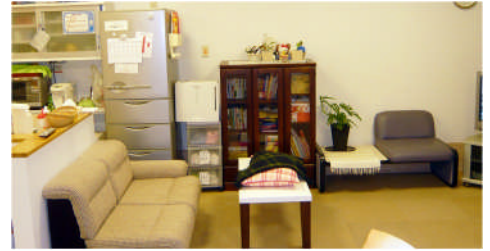
皆さんで焼き焼きを作っています

私たち職員にとっては職場でも入居者にとっては最後まで住む家となる事を常に考えて業務に取り組むことが必要だと思っています。そう考えるとたとえば居室(個室)はその人の家となりますので本人の希望など理由がない限りはプライベートスペースを守る上でも入居者がおられる、おられないに関係なく扉は閉めているのが普通だと思います。自分たちの暮らしを見て考えると家の玄関を開けばなしにしている方はおそらくおられないと思います。

誰もが自ら住んでいる環境や生活習慣を変えたいと望む方は少ないと思いますので、このような視点でケアを行うのがユニットケアでは大切だと言えます。入居するにあたり馴染みの物や家具の持ち込みを勧めるのも「その人の部屋」になることで我が家と思える・認知できる

ことで落ち着く場所となる等の理由です。

このように個人の生活スタイルを継続して実現できるようにケアを行います。ユニットによって入居者の方々も違えば設えにも違いがあり、雰囲気も様々になります。ご本人やご家族の希望を全て叶えることは難しいかもしれませんが、できる限り実現できるよう努力しますので是非お気軽にご相談ください。



家庭的な雰囲気を漂わせるリビングの設え

リレーエッセイ(21) 「祖母との生活」

介護職員
中岡 剛至

僕は現在、祖母の家から通勤しています。祖母は以前、独りで暮らしていましたが、昨年9月に転倒し、大腿骨を骨折してしまいました。それからは、僕と母で祖母の家に泊まり、身の回りの世話をしています。

僕は高校の3年間、祖母の家から通学していました。その頃は孫の僕の晩御飯を作ってくれたり、洗濯物を干してくれたりしてくれていました。しかし、僕が高校を卒業した年に以前から痛いと言っていた膝の状態が悪くなり、手術し、入院することになりました。退院した祖母は認知症が悪化し、独りで暮らすには少し困難な状態になった為、ホームヘルパーやデイサービスを利用していました。

今回、大腿骨を骨折してしまったことで歩行は以前に比べ不安定になり、入院により認知症がさらに悪化し、身の回りのことに少し介助が必要になりました。

退院してからは常に誰かが家にいるということに気づいているのか祖母は僕や母に対し、「はよ、帰れ」とか「もう、ほっといてくれ」などと怒ってくる場合があります。そんなときは少し距離を置いて様子を見ています。

自分でできることを手伝ってしまうと、さらに認知症の悪化につながると思います。以前のように独りで生活することは難しいと思いますが、祖母のできることとできないことをもっと考え、お互いに楽しく生活していけたらいいと思います。

次回は9ユニットの吉本さやかさんをお願いします。



「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

ainosono@shinai.or.jp

3~4月の愛の園

- 11(火) マリア会
- 13(木) やまびこ会
- 16(日) 日曜礼拝
- 18(火) ひまわり会
- 19(水) 手芸サークル
- 20(木) やまびこ会
- 21(金) 社協ボランティア来園 おはぎ
- 23(日) 日曜礼拝
- 25(火) マリア会
- 26(水) 歯科診療
- 27(木) やまびこ会
- 30(日) 日曜礼拝

- 2(水) まりもと愉快的仲間たち来園
- 3(木) やまびこ会
- 6(日) 日曜礼拝
- 8(火) マリア会

編集者から

先日「災害ヘリ映像は語る～知られざる大震災の記録～」という番組が放映され、東日本大震災を自衛隊・消防のヘリコプターが空から撮影した未公開を含む膨大な映像によって、巨大津波や津波火災の実像と減災への教訓が紹介されていました。3年前の3月11日に職員と共に津波に飲み込まれる街々の映像にくぎ付けになったことを思い返しました。

岩手・宮城・福島の大津波の首長の6割が、東京オリンピックが復旧・復興にマイナスの影響を与えるとみているとの報道もありました。貴重な教訓によってそれぞれの場で防災・減災に努めるとともに、被災地の復旧・復興はまだまだ途上であること決して忘れず、私たちにできる限りの支援を続けたいと思います。(A)

ホームページもご覧ください。
バックナンバーを掲載しています

<http://shinai.or.jp>